

史跡等の概要（遺跡の魅力は何か）

1. 指定に至る経緯

1-1 遺跡の発見

- ・戦前から畑の耕作などの際に、縄文土器のかけらなどが多く見つかることが知られていたが、1950年、吉田格氏により「坂上遺跡」という名称で紹介された。

1-2 遺跡の調査

- ・下野谷遺跡の本格的な調査は、1972年に予備調査に始まり、1973年から2016年まで合計23回の調査が行われた（詳細は後述）。

1-3 史跡指定と追加指定

- ・2015年3月10日に国指定史跡に指定される。
- ・2016年3月1日に追加指定。

2. 指定の内容

2-1 指定告示

名称：史跡下野谷遺跡
指定履歴：平成27年3月10日付 官報告示
所在地：東京都西東京市東伏見2・3・6丁目地内
面積：134,000 m²

2-2 指定理由

下野谷遺跡は、武蔵野台地の中央部を貫流する石神井川右岸の台地上の先端部、標高50メートルに立地する、縄文時代中期中葉から末葉に属する環状集落跡である。

この遺跡は、戦前から縄文土器が採集される坂の上の遺跡として「坂上遺跡」と呼称されていたが、保谷市教育委員会（現・西東京市教育委員会）が実施した昭和48年度から昭和50年度までの遺跡の範囲と内容を確認するための発掘調査を契機に、小字名から「下野谷遺跡」という名称に変更され現在に至っている。その後、平成3年度以降に頻発した宅地開発や下水道工事に伴う緊急発掘調査により、縄文時代中期の大規模な環状集落であることが判明すると、遺跡の保護を求める動きが活発になった。そこで、西東京市教育委員会では、平成19年度には遺跡の一部を公有化して下野谷遺跡公園として保護を図った。その後、西東京市教育委員会は遺跡全体の範囲と内容を確認するための発掘調査を平成21～23年度まで実施した結果、土坑群・^{どこう} 堅穴建物群・^{たてあな} 掘立柱建物群・^{ほつ} 掘立柱建物群によって構成される直径150メートルの環状集落であることが判明した。

この遺跡の構造は、東西70メートル、南北50メートルの範囲で墓と考えられる土坑群が中央部に密集し、それを環状に取り囲むように堅穴建物群が配置され、さらに掘立柱建物群になると

考えられる柱穴群が、環状集落の西側に土坑群と竪穴建物群に挟まれるように細長く半円形に配置される。なお、この遺跡では、これまで縄文時代中期中葉から末葉に至るまでの竪穴建物 107 棟、土坑 166 基が確認されている。遺物は、縄文土器については、縄文時代中期前葉の五領ヶ台式ごりょうがだいから後期初頭の称名寺式しょうみやうじまで連綿と出土するが、環状集落の主要な時期を構成するものは中期中葉の勝坂式かつさかから中期末葉の加曽利EIV式かそりである。また、石器としては、石鏃せきぞく・石匙せきひ・磨製石斧せきふ・打製石斧・石皿・磨石すりいしなどが多数出土している。

この下野谷遺跡の谷を挟んだ東側には、東西 300 メートル、南北 180 メートルの範囲に、ほぼ同時期に属する環状集落が近接する。土坑を囲む環状の竪穴建物群と、環状集落の西側に土坑群と竪穴建物群に挟まれるように細長く半円形に配置される掘立柱建物群の構造は下野谷遺跡と類似した構造であり、本来両者は下野谷遺跡西集落と東集落という関係性を有した双環状集落になると考えられる。この東集落については、規模については西集落を凌ぐものであるが、今後遺跡の範囲や内容を精査した上で、保護に関する取り扱いを検討する必要がある。

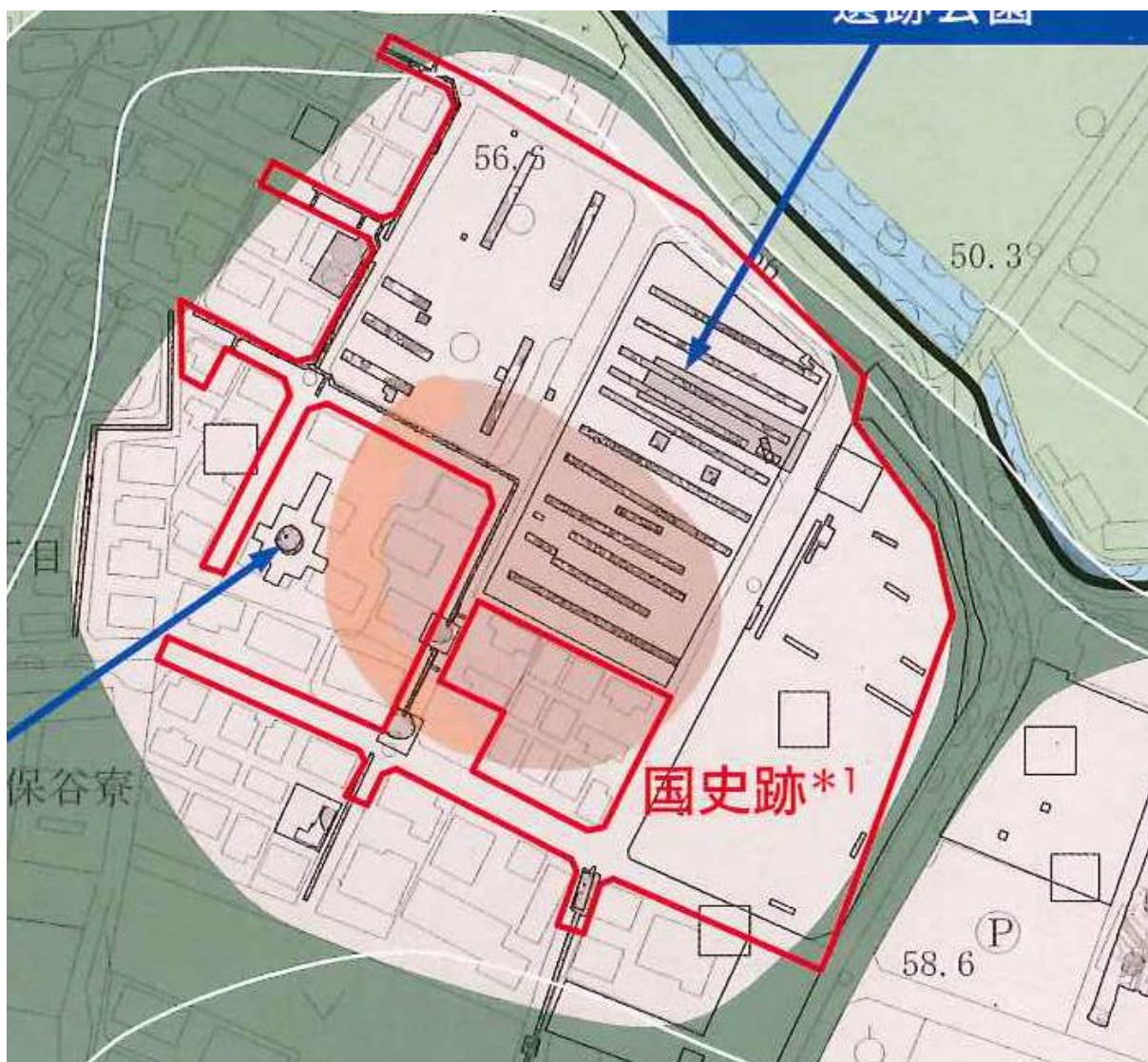
縄文時代中期の環状集落は関東甲信越に広く分布しており、その中でも、関東南部の武蔵野台地と多摩丘陵は、長野県の八ヶ岳南麓の縄文遺跡群に次ぐ密集度を有し、中規模河川ごとに縄文時代中期の大規模な拠点集落が、数キロメートルの間隔で密集する。これらの中であって、下野谷遺跡は規模・内容とも傑出した存在であるとともに、遺存状態も極めて良好である。特に、開発が著しい首都圏において、これほど遺存状態の良好な環状集落は極めて珍しい。

このように下野谷遺跡は、関東甲信越に広く分布する縄文時代中期の環状集落の典型例であり、関東南部の環状集落の中では規模は最大級で、その構造も明らかになっており、遺存状態も極めて良好である。よって史跡に指定して保護を図ろうとするものである。

(文化庁文化財部監修『月刊文化財』平成 27 年 2 月号所収「新指定の文化財」より引用)

2-3 指定地の範囲





・国指定史跡下野谷遺跡

3 下野谷遺跡の魅力

3-1 下野谷遺跡の本質的価値（案）

1 関東甲信越の縄文時代中期の環状集落の典型的な構造を持つ集落

- ・史跡下野谷遺跡の構造は、東西 70m、南北 50mの範囲で墓と考えられる土坑群が密集し、それを取り囲むように竪穴建物群が配置され、その西側に掘立柱建物群になると考えられる柱穴群が半円形に配置されている。
- ・この構造は、縄文時代中期に関東甲信越に広く分布する環状集落の典型に当たる。また、開発の著しい都市部において、こういった環状集落全域が保存されている例は稀有である。

2 傑出した規模内容を持つ縄文時代中期の拠点集落

- ・集落の直径は 150m と大規模である。
- ・集落の存続期間は、土器型式から中期中葉の勝坂式から中期末葉の加曾利 E IV 式を主体とし、中期前葉の五領ヶ台式から後期初頭の称名寺式までと連綿と長く、約千年間にわたり続いている。
- ・土器、石器などの遺物も大量に出土しており、武蔵野台地、多摩丘陵といった関東南部の中規模河川ごとに分布する大規模な集落の中でも規模・内容ともに傑出した存在である。
- ・石神川流域の拠点集落である。

3 東集落と双環状集落を成す遺跡

- ・谷を挟んだ東側には、東西 300m、南北 180m の範囲でほぼ同時期の類似した構造を持つ大規模な環状集落が近接してある。
- ・両集落は本来、史跡下野谷遺跡（西集落）と東集落という関係性を有した双環状集落と考えられ、拠点集落の構造等を考えるにおいては価値が高いが、東集落に関しては、開発による記録保存調査が実施されている部分が多い。

4 明瞭な集落立地の景観が残る

- ・遺跡は武蔵野台地の中央部を貫流する石神井川右岸台地上の先端部に位置する。台地の中央には谷が入り、対岸約 7m 下には、かつては沼状を呈していたと考えられる低地が広がっている。台地と低地の高低差が明瞭で、崖線には緑が繁っており、縄文時代の集落立地の状況とその景観をイメージできる周辺自然環境が良く残っている。

3-2 下野谷遺跡の本質的価値などを構成する要素

3-2-1 本質的価値を構成する諸要素（案）

史跡内

- ① 発掘調査等から導きだされたもの
 - ・環状集落
 - ・墓域＝中央広場（史跡内外で東西 70m南北 50m）
 - ・地下に埋蔵された土坑＝墓壙を含む（史跡内外で現在 166 基確認）
 - ・土器や石器などの遺物
 - ・建物域（外形の直径 150mの環状）
 - ・地下に埋蔵された竪穴建物跡（現在 108 軒確認）
 - ・掘立建物跡（現在 5 棟確認）
 - ・土器や石器などの遺物
- ② 自然・環境
 - ・環状集落が立地する高台
- ③ その他の要素
 - ・遺跡公園内
 - ・竪穴住居の復元模型、土坑復元模型、地層復元模型、遺跡等説明版
 - 縄文の森の植生（クリ、クルミ、コナラ、シイ等）
 - その他の植栽（芝、クローバー、ムラサキシキブ等）
 - 誰でもトイレ、水飲み場、遺跡公園看板、注意看板、園路、園路灯、ベンチ、柵
 - ・遺跡公園外
 - ・標柱（暫定）、説明版（暫定）、説明看板、柵
 - 市道、車止め、街路灯、電柱、ごみ置き場、市民集会所

史跡外 西集落の範囲

- ① 発掘調査等から導き出されたもの
 - ・史跡内①に同じ
- ② 自然・環境
 - ・史跡内②に同じ
- ③ その他の要素
 - ・戸建住宅、集合住宅（低層）、駐車場、私道、電柱、街路灯、空き地（都有地）

3-2-2 本質的価値を補完する要素（案）

史跡内

- ① 発掘調査等から導き出されたもの
- ・本質的価値以外の歴史的・文化的価値をもつ地下埋蔵物等

史跡外 周知の包蔵地内

- ① 発掘調査等から導き出されたもの
- ・双環状集落をなす東側集落（東西 300m×南北 180m）
 - ・地下に埋蔵された土坑＝墓壙を含む（現在 1000 基以上確認）
 - ・地下に埋蔵された竪穴建物跡（現在 328 軒確認）
 - ・土器や石器などの遺物
 - ・低地部に広がる遺跡
 - ・地下に埋蔵された遺構
 - ・土器や石器などの遺物
 - ・本質的価値以外の歴史的・文化的価値をもつ地下埋蔵物等

② 自然・環境

- ・環状集落の立地を示す地形と景観
- ・環状集落の立地する高台
- ・石神井川に下る傾斜地と低地
- ・崖地（都有地）
- ・東西台地を分ける谷
- ・石神井川
- ・崖線の緑

③ その他の要素

- ・戸建住宅、集合住宅（低層）、公園、東伏見小学校、早稲田大学、郵便局、商業施設、駐車場、都道、木道（都道）、橋（都）、私道、電柱、街路灯、石仏

史跡外 その他（やや広域の要素・現代的な価値を付加するための要素など）

今後の検討

3-2-3 今後の調査研究から導き出される保存活用に付加すべき要素（案）

- ① 広域な交流
他系統土器や黒曜石などの原材料からみるつながり
- ② 生業
圧痕分析からわかる管理栽培の可能性など

3-3 下野谷遺跡の本質的価値をより活かすためのネットワーク（案）

- ① 縄文時代中期の環状集落のモデル
全国の縄文時代中期の集落遺跡との連携
- ② 石神井川流域の拠点集落
石神井川流域遺跡との連携（他の時代も含む）
- ③ 圧痕分析・他系統土器の分析など、研究のネットワーク
研究者・研究機関との連携（大学等）
- ④ 縄文時代的な景観の保全
水とみどりのネットワーク